

電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	知的生産性と対人関係		
英文授業科目名	Interpersonal Relation in Creative Activity		
開講年度	2009年度	開講年次	3年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-テーマ別セミナー		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	田中 健滋		
居室	保健管理センター202		

公開E-Mail	授業関連Webページ
kjtanaka@office.uec.ac.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>主題：代表的な日本人論の検討を通じ、現在と過去の日常生活の対人関係を考える。 さらに、これらと知的生産性の関係を検討する。</p> <p>達成目標：代表的な日本人論を十分理解し、これを批判的に評価できるようになること。さらにこの検討を基にして、対人関係と知的生産性との関係を論ずることができるようになること。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし。

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
なし。

<b>【教科書等】</b>
<p>(教科書) 土居健郎：続「甘え」の構造（弘文堂）</p> <p>(参考書) 土居健郎：「甘え」の構造（弘文堂） ルース・ベネディクト：菊と刀（社会思想社） 中根千枝：タテ社会の人間関係（講談社新書）</p>

## 電気通信大学 平成21年度シラバス

--

### 【授業内容とその進め方】

各回の発表者が、資料とするテキストの担当部分の内容をまとめたプリントを配り、それを説明し、皆からの質問を受ける。他の人はその部分をあらかじめ読んでおき、討論に参加する。

### 【授業時間外の学習（予習・復習等）】

次回に取り上げるテキスト部分を、あらかじめ読んで理解しておくこと。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a)評価方法：出席が2 / 3以上ない場合は評価対象とならない。

$$\text{成績評価} = (\text{出席および討論参加度評価} 30 \text{点}) + (\text{担当部分発表評価} 30 \text{点}) \\ + (\text{最終レポート評価} 40 \text{点})$$

(b)評価基準：

以下をもって合格最低基準とする。

- (1)資料としたテキストの内容を理解し、評価すべき点および問題点を指摘できる。
- (2)この理解をもとに、過去と比較した現代の学生の対人関係を論ずることができる。さらに、対人関係と知的生産性について論ずることができる。

### 【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応ずるが、メールなどで事前にアポイントをとること。

### 【学生へのメッセージ】

各概念の定義をとらえること。セミナーでは遠慮無く自分の思ったことを発言すること。

### 【その他】

なし。